

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施策	①世界自然遺産や自然公園の適正管理
			施策の小項目名	○世界自然遺産の保全と適正管理の推進
主な取組	地域社会との協働による遺産の管理体制の構築及び運営の支援		対応する成果指標	世界自然遺産登録の更新
施策の方向	・固有性の高い生態系と世界的に見ても生物多様性の保全上重要な地域である沖縄島北部及び西表島の世界自然遺産登録地においては、その普遍的価値を維持できるよう、鹿児島県の奄美大島、徳之島とともに、自然環境の保全体制の構築及び適正な観光管理に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画			
		活動指標(アウトプット)			
		R4	R5	R6	
世界自然遺産地域の沖縄島北部及び西表島において、地域の関係者が参画する地域部会を開催するとともに、地域別行動計画の進捗状況を検証し、必要に応じ見直し等を行う。	県	地域部会の開催、行動計画の検証等			
		行動計画の検証・見直しを行うための会議の開催数(累計)			
		2回	2回(4回)	2回(6回)	
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名 世界自然遺産管理運営支援業務				予算事業名 世界自然遺産管理運営支援業務		
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
一括交付金 (ソフト)	委託	35,211	29,436	主な財源	実施方法	当初予算額
				一括交付金 (ソフト)	委託	28,014
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
沖縄島北部及び西表島において地域部会を各2回開催し、地域別行動計画の進捗管理と、新たな課題への対応について検討した。				沖縄島北部及び西表島において地域部会を各2回開催し、地域別行動計画の改定作業に着手する。		

活動指標名	行動計画の検証・見直しを行うための会議の開催数(累計)		R6年度			進捗状況	活動概要
	R4年度	R5年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	2回	2回	2回	2回(6回)	100.0%	順調	沖縄島北部及び西表島において地域部会を各2回開催し、地域別行動計画に位置付けられた各取組について進捗状況を把握するなどして、同計画の検証や見直しを行った。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

設定した目標回数の地域部会を開催し、関係行政機関のみならず、地元関係者等との連絡調整、意見交換により各地域の行動計画の検証・見直しを行うことができた。各地域ごとの課題を整理し、世界自然遺産地域の適正な保全・管理に寄与した。

(2) これまでの改善案の反映状況	
令和6年度の取組改善案	反映状況
○世界遺産委員会からの求めに応じ、各地域部会のネットワークを活用し、関係機関と連携を強化して対応を検討していく。	○世界遺産委員会からの要請事項である観光管理、ロードキル対策、河川再生及び森林管理の項目毎に、地域部会の構成機関を中心に会議を実施した。 ○地域毎に状況や課題が異なることから、地域部会の構成機関と連携して議論を交わしながら、事業に取り組んだ。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
② 他の実施主体の状況(内部要因)	世界自然遺産4地域を包括する「包括的管理計画」が令和7年度に改定されることを踏まえ、同計画に付随する沖縄島北部及び西表島の「地域別行動計画」の改訂を行う必要がある。	② 連携の強化・改善	「地域別行動計画」を適切に改定するため、遺産地域の関係機関のみならず、県庁内他部局や鹿児島県、環境省、林野庁などとの連携を強化して、地域別の課題や取組を反映させる。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施策	①世界自然遺産や自然公園の適正管理
			施策の小項目名	○世界自然遺産の保全と適正管理の推進
主な取組	国、教育機関、研究機関等と連携したモニタリング調査の実施		対応する成果指標	世界自然遺産登録の更新
施策の方向	<p>・固有性の高い生態系と世界的に見ても生物多様性の保全上重要な地域である沖縄島北部及び西表島の世界自然遺産登録地においては、その普遍的価値を維持できるよう、鹿児島県の奄美大島、徳之島とともに、自然環境の保全体制の構築及び適正な観光管理に取り組みます。</p>			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
世界自然遺産地域モニタリング計画に基づき、国、県、研究機関等により遺産価値の維持管理に係るモニタリング調査を行う。	県	世界自然遺産登録地の保全状況の適切な把握及び評価		
		世界自然遺産地域モニタリング計画に基づくモニタリング調査の実施数(調査項目)(累計)		
		北部15項目、西表11項目	北部15項目(30項目)、西表11項目(22項目)	北部15項目(45項目)、西表11項目(33項目)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	世界自然遺産保全・適正利用推進事業			予算事業名	世界自然遺産保全・適正利用推進事業	
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
一括交付金 (ソフト)	委託	332,960	287,879	主な財源	実施方法	当初予算額
				一括交付金 (ソフト)	委託	237,626
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
<p>国、県等により遺産価値に係るモニタリングを行った。県では、世界自然遺産保全・適正利用推進事業等において、外来種の生息状況等を調査を実施した。</p>				<p>国、県等により遺産価値に係るモニタリングを行う。県では、西表島における観光管理や、沖縄島北部のノネコ等の対策を実施する。</p>		

活動指標名	世界自然遺産地域モニタリング計画に基づくモニタリング調査の実施数(調査項目)(累計)		R6年度			進捗状況	活動概要
	R4年度	R5年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	15項目	18項目	16項目	北部15項目	100.0%	順調	<p>県では、モニタリング計画掲げる指標に沿って沖縄島北部と西表島の両地域でモニタリング調査に取り組んでおり、違法採取トラップ数や、マングース・ノネコ等の外来種生息状況などを調査した。</p>
活動指標名	世界自然遺産地域モニタリング計画に基づくモニタリング調査の実施数(調査項目)(累計)		R6年度				
実績値	R4年度	R5年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
	11項目	16項目	15項目	西表11項目	100.0%		

様式1 (主な取組)

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
世界自然遺産地域モニタリング計画に基づくモニタリング調査の実施数について、目標の北部15項目、西表11項目に対し、実績が北部16項目、西表15項目だったことから、「順調」と判定した。	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和6年度の取組改善案	反映状況
○遺産地域の保護管理に向けて効果的・効率的な手法を、有識者等からの助言を踏まえて、検討する。	○密猟対策やノネコ等対策、西表島の観光管理など、遺産地域における課題毎に検討会を設けるなどして有識者等から助言を受け、継続して調査にあたった。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	飼い猫の管理状況やロードキル発生状況の指標においては、遺産価値に一定の悪影響またはその恐れが認められる、と評価された項目がある。	⑤ 情報発信等の強化・改善	飼い猫の適正管理やロードキル発生防止について、地域住民や来訪者に対する情報発信等を強化し、状況の改善に寄与するよう取組を継続する。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施策	①世界自然遺産や自然公園の適正管理
			施策の小項目名	○世界自然遺産の普及啓発・人材育成
主な取組	県民や観光客への生物多様性の保全やマナー・ルールの啓発		対応する成果指標	世界自然遺産登録の更新
施策の方向	<p>・地域住民を含めた県民や観光客に対する生物多様性の保全やマナー・ルールについて、県内外の観光事業者等と連携し、空港、港湾、地域の観光拠点のみならず、インターネットも活用しながら、啓発に取り組みます。さらに、国、教育機関、研究機関等と連携し、モニタリングや科学的な管理の基盤整備、自然環境の保管理等の担い手としての若い世代や地域の人材育成を促進するとともに、世界自然遺産の次世代への継承を目的とした児童生徒への啓発に取り組みます。</p>			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
世界自然遺産地域の貴重な自然環境を次世代へ継承するために、世界自然遺産の価値とその保全の重要性について、次世代を担う子どもたちへの普及啓発に取り組むとともに、広く県民および観光客等へPRする。	県	県民や観光客への生物多様性の保全やマナー・ルールの啓発		
		観光施設等でのマナー・ルールブックの配布、電子化		
		26施設以上で配布	電子化による発信	コンテンツの充実
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名 世界自然遺産普及啓発事業				予算事業名 世界自然遺産普及啓発事業		
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
一括交付金 (ソフト)	委託	23,000	19,400	主な財源	実施方法	当初予算額
				一括交付金 (ソフト)	委託	16,186
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
遺産地域を含む圏域の児童生徒を対象とする環境教育や図画コンクールの開催、世界自然遺産の認知度向上および理解醸成を図る取組等				遺産地域を含む圏域の児童生徒を対象とする環境教育や図画コンクールの開催、世界自然遺産の認知度向上および理解醸成を図る取組等		

活動指標名	観光施設等でのマナー・ルールブックの配布、電子化		R6年度			進捗状況	活動概要
実績値	R4年度	R5年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
		26施設以上で配布	電子化による発信	コンテンツの充実	コンテンツの充実	100.0%	順調

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

コンテンツの充実を目標としたことに対し、やんばるや西表島の自然の特徴や生物多様性の重要性、生態系保全対策、来訪者のマナーや地元住民への配慮事項等をホームページに体系的に掲載し、関連イベント情報も併せて発信していることから「順調」と判断した。

(2) これまでの改善案の反映状況	
令和6年度の取組改善案	反映状況
図画コンクールや環境教育の開催等、引き続き世界自然遺産の認知度向上および理解醸成を図る取組を行う。	世界自然遺産の価値や保全の重要性について、遺産登録地を含む圏域の小中学生の理解醸成を図るため、図画コンクールを開催したほか、環境教育として西表で2回、やんばるで2回、自然体験学習ツアーを開催した。また、図画コンクールで受賞した作品デザインをもとに飛行機のラッピング広告を実施し、世界自然遺産について広くPRを行った。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制(内部要因)	世界自然遺産の価値とその保全の重要性等について理解醸成を図るため、ホームページでの情報発信と併せて、次世代を担う地域の児童生徒の自然環境への理解や関心を高める必要がある。	⑤ 情報発信等の強化・改善	ホームページでの情報発信と併せて、地域の児童生徒を対象とした図画コンクールや環境学習を実施するとともに、パネル展等を通して広く世界自然遺産の認知度向上および理解醸成を図る。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施策	①世界自然遺産や自然公園の適正管理
			施策の小項目名	○世界自然遺産の普及啓発・人材育成
主な取組	児童生徒への啓発		対応する成果指標	世界自然遺産登録の更新
施策の方向	・地域住民を含めた県民や観光客に対する生物多様性の保全やマナー・ルールについて、県内外の観光事業者等と連携し、空港、港湾、地域の観光拠点のみならず、インターネットも活用しながら、啓発に取り組みます。さらに、国、教育機関、研究機関等と連携し、モニタリングや科学的な管理の基盤整備、自然環境の保安全管理等の担い手としての若い世代や地域の人材育成を促進するとともに、世界自然遺産の次世代への継承を目的とした児童生徒への啓発に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画			
		活動指標(アウトプット)			
		R4	R5	R6	
世界自然遺産地域の貴重な自然環境を次世代へ継承するために、世界自然遺産の価値とその保全の重要性について、次世代を担う子どもたちへの普及啓発に取り組む。	県	地元小中学校への環境教育の実施			
		フィールド観察会の開催数(累計)			
		4回	4回(8回)	4回(12回)	
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)			
予算事業名	世界自然遺産普及啓発事業			予算事業名	世界自然遺産普及啓発事業		
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度			
一括交付金 (ソフト)	委託	23,000	19,400	主な財源	実施方法	当初予算額	
				一括交付金 (ソフト)	委託	16,186	
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画			
遺産地域を含む北部圏域および八重山圏域の児童生徒を対象とする環境教育や図画コンクールを開催した。				遺産地域を含む北部圏域および八重山圏域の児童生徒を対象とする環境教育や図画コンクールを開催する。			
活動指標名	フィールド観察会の開催数 (累計)		R6年度			進捗状況	活動概要
	R4年度	R5年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
実績値	2回	3回	4回	4回 (12回)	100.0%	順調	世界自然遺産の価値や保全の重要性について、遺産登録地を含む圏域の小中学生の理解醸成を図るための環境教育として西表で2回、やんばるで2回、自然体験学習ツアー (フィールド観察会) を開催した。

様式1 (主な取組)

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
<p>フィールド観察会の開催について、目標の4回に対し実績は4回だったことから「順調」と判定した。野生生物保護関連施設等の見学、カヌー体験やフィールドワークなどの自然体験プログラム、ビーチクリーンなど、自然の雄大さを感じる体験や自然環境の保全に関する学びを通して、世界自然遺産の保全意識の向上を図ることができた。</p>	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和6年度の取組改善案	反映状況
<p>対象年齢等に応じてじかに自然体験ができるような効果的なプログラムを検討する。</p>	<p>北部圏域、八重山圏域それぞれ2つのコースを用意し、対象年齢に応じて効果的な自然体験ができるようプログラムの改善を行った。</p>

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	<p>環境教育の実施にあたっては、地域の状況や行事等を考慮し、児童生徒が参加しやすい開催時期を検討する必要がある。</p>

4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
⑦ 取組の時期・対象の改善	<p>地域の状況や行事等を考慮するとともに、自然体験プログラムの内容に適した開催時期を検討する。</p>

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施策	①世界自然遺産や自然公園の適正管理
			施策の小項目名	○自然保護地域の適正な地域指定・管理
主な取組	自然公園区域等の見直し（伊良部県立自然公園）		対応する成果指標	世界自然遺産登録の更新
施策の方向	・自然保護地域については、自然環境保全地域、自然公園、鳥獣保護区など、それぞれの区域拡大を含めた適正な地域指定・管理及び利用促進に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
伊良部県立自然公園を取り巻く自然的、社会的条件が変化していることから、自然公園区域等の見直しを行う。	県	自然公園の区域等について、自然的・社会的条件の変化に応じた見直しの実施		
		伊良部県立自然公園区域等の見直し		
		地域の現況調査及び意向確認等	関係機関調整、地元説明等	変更計画原案作成、意見照会等
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	伊良部県立自然公園見直し事業			予算事業名	伊良部県立自然公園見直し事業	
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
県単等	委託	1,419	1,320	主な財源	実施方法	当初予算額
				県単等	委託	2,242
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
過年度に引き続き、現地調査を実施し、詳細な公園資質について把握した。				過年度に引き続き、現地調査を実施し、詳細な公園資質について把握する。		

活動指標名	伊良部県立自然公園区域等の見直し		R6年度			進捗状況	活動概要
実績値	R4年度	R5年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
		地域の現況調査及び現地踏査	地域の現況調査	地域の現況調査	変更計画原案作成、意見照会等	70.0%	やや遅れ

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

詳細な公園資質の把握のための追加調査が必要となったことから、変更計画原案作成、意見照会等に至らなかったが、必要な環境調査（時季調査）を昨年度に引き続き実施したことから進捗状況をやや遅れとした。この取り組みにより、令和7年度の活動計画に円滑に繋げることができた。

(2) これまでの改善案の反映状況	
令和6年度の取組改善案	反映状況
○自然的、社会的条件の変化を的確に捉えるため、十分な調査、地域の意向確認を行い、有識者等の意見も踏まえて見直し作業を進める。	○自然的、社会的条件の変化を的確に捉えるため、過年度の環境調査を基礎に、令和6年度は夏季における動植物調査を行い、見直し作業を進めた。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
④ 社会・経済情勢の変化(外部環境の変化)	自然的、社会的条件の変化を的確に捉えるため、時季調査(秋季)を実施し、見直しに反映する必要がある。	⑥ 変化に対応した取組の改善	自然的、社会的条件の変化を的確に捉えるため、時季調査(秋季)、地域の意向確認を行い、有識者等の意見も踏まえて見直し作業を進める。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施策	①世界自然遺産や自然公園の適正管理
			施策の小項目名	○自然保護地域の適正な地域指定・管理
主な取組	自然公園区域等の見直し（沖縄戦跡国定公園）		対応する成果指標	世界自然遺産登録の更新
施策の方向	・自然保護地域については、自然環境保全地域、自然公園、鳥獣保護区など、それぞれの区域拡大を含めた適正な地域指定・管理及び利用促進に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
沖縄戦跡国定公園を取り巻く自然的、社会的条件が変化していることから、自然公園区域等の見直しを行う。	県	自然公園の区域等について、自然的・社会的条件の変化に応じた見直しの実施		
		沖縄戦跡国定公園区域等の見直し		
		情報収集、有識者ヒアリング等	地域の現況調査及び意向確認等	関係機関調整、地元説明等
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	沖縄戦跡国立公園見直し事業			予算事業名	沖縄戦跡国立公園見直し事業	
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
県単等	委託	7,645	6,992	主な財源	実施方法	当初予算額
				県単等	委託	5,463
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
地元関係者等調整、有識者ヒアリング、見直し内容の検討・整理等を実施した。				関係機関との協議・調整、地元説明、指定書・計画書の変更案作成等を実施する。		

活動指標名	沖縄戦跡国立公園区域等の見直し		R6年度			進捗状況	活動概要
実績値	R4年度	R5年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
		情報収集、有識者ヒアリング等	地域の現況調査及び意向確認等	関係機関調整等	関係機関調整、地元説明等	70.0%	やや遅れ

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

地元関係者等調整、有識者ヒアリング、見直し内容の検討・整理等に取り組み、令和7年度の活動計画につなげることができたが、これらの取り組みに時間を要し地元説明に至らなかったため、進捗状況をやや遅れとした。

(2) これまでの改善案の反映状況	
令和6年度の取組改善案	反映状況
○自然的、社会的条件の変化を的確にとらえるため、地元関係者等調整、有識者ヒアリング、見直し内容の検討・整理等を踏まえて見直し作業を進める。	○自然的、社会的条件の変化を的確にとらえるため、地元市町からの見直し要望について調整し、植物分野の有識者へのヒアリングを実施のうえ、見直し内容の検討・整理等を踏まえて見直し作業を進めた。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
④ 社会・経済情勢の変化(外部環境の変化)	自然的、社会的条件の変化を的確にとらえ、見直しに反映する必要がある。	⑥ 変化に対応した取組の改善	自然的、社会的条件の変化を的確にとらえるため、関係機関との協議・調整、地元説明を踏まえて指定書・計画書の変更案の作成作業を進める。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施策	①世界自然遺産や自然公園の適正管理
			施策の小項目名	○自然保護地域の適正な地域指定・管理
主な取組	鳥獣保護区の指定		対応する成果指標	世界自然遺産登録の更新
施策の方向	・自然保護地域については、自然環境保全地域、自然公園、鳥獣保護区など、それぞれの区域拡大を含めた適正な地域指定・管理及び利用促進に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
本県に生息、飛来等する鳥獣の保護を図り、本県の生物多様性の保全に寄与することを目的に、鳥獣の保護のために必要と認められる地域について鳥獣保護区等に指定し、管理する。	県	鳥獣保護区の新規指定及び更新、特別保護地区の新規指定及び再指定		
		鳥獣保護区の新規指定、更新箇所数(累計)		
		新規指定、更新手続きに向けた整理作業	2箇所	1箇所(3箇所)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	—			予算事業名	—	
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
県単等	直接実施			主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	直接実施			県単等	直接実施	
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
大保鳥獣保護区の更新を行い、更に、鳥獣保護管理員を活用して既存の鳥獣保護区の管理や保護区指定候補地の調査等を行った。				既存の鳥獣保護区の管理を行うとともに、第13次鳥獣保護管理計画の保護区指定候補地の調整を進めるため、意見交換や調査等を実施する。		

活動指標名	鳥獣保護区の新規指定、更新箇所数 (累計)		R6年度			進捗状況	活動概要
	R4年度	R5年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
実績値	27地区	27地区	1箇所	1箇所 (3箇所)	100.0%	順調	大保鳥獣保護区において、関係者等へ事前説明等をし、更新を行った。また、既存の鳥獣保護区等において、鳥類の生息数調査の実施や鳥獣保護管理員と連携しながら、鳥獣保護区の管理に取り組んだ。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

大保鳥獣保護区における更新を予定通り行ったため、順調としている。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和6年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> ○市町村等関係機関意見を慎重に聞き取り、精査して、必要な対応を検討する。 ○新規指定の地区について、鳥獣保護管理員等と連携しながら最新の情報を収集する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鳥獣保護区等の指定にあたっては、地元市町村等にその趣旨を十分に理解してもらい、その上で賛否の判断を仰ぐこととし、賛成意見のみならず、反対意見についても精査し、必要な対応を検討しながら、推進を図った。 ○鳥獣保護管理員等と連携しながら、既存の鳥獣保護区等の管理を図りつつ、最新の情報を収集した。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
② 他の実施主体の状況(内部要因)	自然環境及び指定に対する県民ニーズに変化があることを配慮する必要があり、市町村等関係機関からの意見を十分に把握し、取り組む必要がある。
① 県の制度、執行体制(内部要因)	鳥獣保護区の新規指定にあたり、鳥獣の生息状況調査等を実施し、最新の情報を持ち合わせる必要がある。



4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
② 連携の強化・改善	市町村等関係機関意見との調整を綿密に行い、精査し、必要な対応を検討する。
① 執行体制の改善	新規指定地区については、鳥獣の生息状況調査の実施または鳥獣保護管理員と連携しながら最新の情報を収集する。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施策	①世界自然遺産や自然公園の適正管理
			施策の小項目名	○自然公園施設の適正管理と利用増進
主な取組	自然公園施設の整備		対応する成果指標	世界自然遺産登録の更新
施策の方向	・自然公園施設の適正な管理及び利用増進については、既存施設の計画的かつ効率的な修繕や更新など効果的な施設整備に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画			
		活動指標(アウトプット)			
		R4	R5	R6	
自然公園の利用増進と適正利用を図るため、自然公園施設の整備を行う。	県	自然公園の利用促進、県民の保健、休養、教化に資する休憩所や公衆トイレ等の施設整備			
		自然公園施設整備に係る取組			
		設計業務・関係機関協議	施設整備	設計業務・関係機関協議	
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	自然公園施設整備事業費 (補助事業)			予算事業名	自然公園施設整備事業費 (補助事業)	
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
一括交付金 (ハード)	直接実施	938	0	主な財源	実施方法	当初予算額
				一括交付金 (ハード)	直接実施	107,500
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
<p>大度園地休憩所および公衆トイレの建築工事が入札不調となり実施できなかった。今後の発注方法等について施設建築課と協議を実施した。</p>				<p>沖縄海岸国定公園の運天森園地休憩所建築工事、沖縄戦跡国定公園の大度園地公衆トイレ建築工事および具志頭園地公衆トイレ建築設計を実施する。</p>		
予算事業名	自然公園施設整備事業費 (単独事業)			予算事業名	自然公園施設整備事業費 (単独事業)	
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
県単等	直接実施	0	1,925	主な財源	実施方法	当初予算額
				県単等	直接実施	3,965
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
<p>県立自然公園の歩道の修繕を実施した。</p>				<p>県立自然公園等の休憩所や公衆トイレ等の修繕を実施する。</p>		

活動指標名	自然公園施設整備に係る取組		R6年度			進捗状況	活動概要
	R4年度	R5年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
実績値	設計業務・関係機関協議	施設整備	関係機関協議、施設修繕	設計業務・関係機関協議	50.0%	大幅遅れ	<p>大度園地休憩所および公衆トイレの建築工事が入札不調となり予算の一部は不用、残りは次年度に繰越した。今後の発注方法等について、施設建築課と協議を実施した。また、久米島県立自然公園の歩道修繕を実施した。</p>

様式1 (主な取組)

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
久米島県立自然公園の歩道の修繕を実施したが、沖縄戦跡国定公園の大度園地休憩所および公衆トイレの建築工事が入札不調となり実施できなかったことから進捗状況を大幅遅れとした。	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和6年度の取組改善案	反映状況
○発注時や履行中の課題等について、関係機関（土木建築部施設建築課）と連携して課題解決にあたり、円滑な執行に努める。	○関係機関（土木建築部施設建築課）と連携して、入札参加資格の要件設定の見直しなどを行った。結果として契約にはつながらなかったが、入札不調の課題解決にあたり、円滑な執行に努めた。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	設計業務や施設整備の執行にあたっては、関係機関（土木建築部施設建築課）と発注準備段階や履行段階での連携が必要となる。	① 執行体制の改善	発注時や履行中の課題等について、関係機関（土木建築部施設建築課）と連携し、進捗状況の共有や課題の抽出、解決策の検討により、円滑な執行に努める。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○希少野生動植物の生態、生息域、個体数の現状把握、脅威となる外来種の防除
主な取組	指定希少野生動植物種のモニタリング		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・県内に生息する希少生物種の生態、生息域、個体数等の現状を的確に把握するとともに、増減の原因等の分析を行い、効果的な保護対策に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
県内に生息・生育する希少な野生動植物の保護を図るため、沖縄県希少野生動植物保護条例の運用や普及啓発、希少種のモニタリング調査、検討委員会の開催等を実施する。	県	モニタリングの実施、外来種による希少種への影響の確認		
		指定希少野生動植物種のモニタリング地点数(累計)		
		30地点	30地点(60地点)	30地点(90地点)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課 【 098-866-2243 】		関連URL	https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/shiteisyu.htm

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	希少野生生物保護推進事業			予算事業名	希少野生生物保護推進事業	
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	委託	12,379	15,018	県単等	委託	14,802
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
モニタリング調査や普及啓発、検討委員会の開催等に取り組むとともに、指定希少野生動植物の保護増殖事業計画を策定し、保護増殖事業を実施した。				引き続きモニタリング調査や普及啓発、検討委員会の開催等に取り組むとともに、指定希少野生動植物の保護増殖事業を実施する。		

活動指標名	指定希少野生動植物種のモニタリング地点数 (累計)		R6年度			進捗状況	活動概要
	R4年度	R5年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
実績値	18地点	22地点	81地点 (121地点)	30地点 (90地点)	100.0%	順調	希少野生生物保護推進事業において、指定希少野生動植物種のモニタリング調査を沖縄島、伊平屋島および久米島で実施した。

様式1 (主な取組)

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
<p>指定希少野生動植物種の名ゴラン、オキナワヤマタカマイマイおよびシラユキヤマタカマイマイについて、保護増殖に取り組む必要があったため令和6年度に保護増殖事業計画を策定し、重点的に生息状況調査を実施した。活動指標の指定希少野生動植物種のモニタリング地点数(累計)については、目標90件に対し実績121件のため、「順調」と判定した。</p>	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和6年度の取組改善案	反映状況
<p>○指定希少野生動植物種のモニタリング調査計画については、検討委員会において調査地点数の案を示し、目標としている地点数を達成できるよう取り組む。 ○名ゴランなど3種の保護増殖事業計画について、自然環境保全審議会において承認を得るとともに、関係機関と連携して事業を推進する。 ○指定希少野生動植物種に関して、パンフレットの配布やホームページでの周知、イベントでの展示など情報発信に取り組む。</p>	<p>○令和7年度のモニタリング調査計画案を検討委員会で示し、専門家からの意見を踏まえ、調査対象種や調査地点、調査時期等の調査計画を策定した。また、調査に必要な予算の確保した。 ○保護増殖事業計画について、自然環境保全審議会における審議を経て、保護増殖計画を策定し、関係機関と連携して事業を推進した。 ○指定希少野生動植物種に関する情報発信として、イベントでの展示、パンフレットの配布やホームページでの周知に取り組んだ。</p>

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	ヤマタカマイマイ2種については、ヤエヤマドボタルの捕食被害が著しいことから、モニタリング調査を重点的に実施する必要がある。	① 執行体制の改善	ヤマタカマイマイ2種のモニタリング調査について重点的に取り組む必要があるため、検討委員会において調査地点等を検討し、ヤマタカマイマイ保護施策を推進する。
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	名ゴランに関して、残存する生育地の保全について、地元との協力体制を構築する必要がある。	① 執行体制の改善	残存する生育地を保全するため、地元でシンポジウムを開催する等、地元協議会との連携に取り組む。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○希少野生動植物の生態、生息域、個体数の現状把握、脅威となる外来種の防除
主な取組	野生鳥獣等生息状況調査		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・県内に生息する希少生物種の生態、生息域、個体数等の現状を的確に把握するとともに、増減の原因等の分析を行い、効果的な保護対策に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
本県に生息している野生鳥獣等の生息状況(生息域、個体数等)を把握するために、新規指定候補地および既存の鳥獣保護区において調査を実施する。	県	鳥獣保護区指定のために必要な鳥獣の生息状況と生息環境把握のための調査		
		調査実施保護区における調査数(内訳)		
		5地域(新規1地域、継続4地域、累計5地域)	5地域(継続5地域)	5地域(継続5地域)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】	関連URL	—

様式 1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	鳥獣保護行政費			予算事業名	鳥獣保護行政費	
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	直接実施	10,328	10,982	県単等	直接実施	10,723
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
鳥獣保護管理員を活用して保護区指定候補地の鳥獣生息状況調査を実施した。				引き続き、鳥獣保護管理員を活用して保護区指定候補地の鳥獣生息状況調査を実施する。		

活動指標名	調査実施保護区における調査数 (内訳)		R6年度			進捗状況	活動概要
	R4年度	R5年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	5地域	5地域	5地域	5地域 (継続5地域)	100.0%	順調	鳥獣保護管理員を活用して保護区指定候補地の鳥獣生息状況調査等を行うとともに、保護区指定候補地の視察した。

様式1 (主な取組)

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
<p>調査実施保護区における調査数について、目標5地域に対し実績として令和4年度までに保護区指定候補地の5地域全てで鳥獣保護管理員を配置させることができたことから、順調と判定した。引き続き鳥獣保護区への指定に向けた関係機関等の調整を進めるとともに、必要に応じて鳥獣生息状況調査等の実施により鳥獣の実態把握に務めることとする。</p>	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和6年度の取組改善案	反映状況
<p>鳥獣保護区等の新規指定にあたり、最新の生息状況に関する情報収集に努める。既存の鳥獣保護区を適正管理するため、鳥獣保護管理員等と連携し継続的に鳥獣の生息状況調査を実施する必要がある。 鳥獣生息調査等の結果をホームページで公開することで、多様な鳥獣が生息していること等を発信していく。</p>	<p>保護区指定候補地等については、鳥獣保護管理員による調査や委託業務により鳥獣生息状況等の調査を実施し、最新の生息状況に関する情報収集に努めた。既存の鳥獣保護区においては、鳥獣保護管理員等の取り組みにより、適正に管理を図った。 鳥獣生息調査等の結果の公表については、調査内容の公表のあり方について検討した。</p>

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
② 他の実施主体の状況 (内部要因)	本県では平成25年度以降、新規指定は行っていないため、鳥獣保護区等の指定等にあたり、最新の生息状況について情報収集する必要がある。
⑤ 県民ニーズの変化 (外部環境の変化)	鳥獣保護区の指定にあたり、第13次鳥獣保護管理事業計画に基づき取り組んでいくこととしているが、自然環境及び指定に対する県民のニーズに変化があることを配慮する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
② 連携の強化・改善	保護区指定候補地の最新の生息状況に関する情報収集に努める。また、既存の鳥獣保護区を適正管理するには、鳥獣保護管理員と連携し継続的に生息状況調査を実施していく。
⑤ 情報発信等の強化・改善	鳥獣保護区の指定にあたっては、保護区指定候補地の利害関係者と慎重に調整を進め、取り組む必要がある。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○希少野生動植物の生態、生息域、個体数の現状把握、脅威となる外来種の防除
主な取組	レッドデータおきなわの改訂		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・県内に生息する希少生物種の生態、生息域、個体数等の現状を的確に把握するとともに、増減の原因等の分析を行い、効果的な保護対策に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
平成28、29年度発刊の第3版レッドデータブックについて、令和8年度までに改訂・公表を目指し、令和4年度から8年度の5年間で各種委員会の開催、文献調査や現地調査の実施等により、改訂作業を進める。	県	改訂作業(文献調査・現地調査、各種委員会の開催)の実施		
		現地調査の実施数(累計)		
		1回	1回(2回)	1回(3回)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】	関連URL	https://www.okinawa-ikimono.com/reddata/

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	沖縄県版レッドデータブック改訂業務			予算事業名	沖縄県版レッドデータブック改訂業務	
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	委託	12,974	13,653	県単等	委託	15,000
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
各分科会による現地調査、掲載種の評価、執筆等の編集作業を行った。また、各種委員会において編集作業に関する情報共有や課題検討等を行った。				各分科会による現地調査、掲載種の評価、執筆等の編集作業を行う。また、各種委員会において編集作業に関する情報共有や課題検討等を行う。		

活動指標名	現地調査の実施数 (累計)		R6年度			進捗状況	活動概要
	R4年度	R5年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
実績値	1回	19回	18回	1回 (3回)	100.0%	順調	掲載種の評価及び原稿の執筆のため、各生物分類群の分科会において、現地調査を合計18回実施した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

5カ年計画の3年目において、本改訂に関する各種委員会を開催し、編集方針等の策定及び希少種の生息・生育状況に係る現地調査も目標値を超えて実施できたことから、進捗状況は順調とした。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和6年度の取組改善案	反映状況
新たに追加した評価対象分類群を含む、生物の生息・生育状況の変化を把握するため、文献調査や現地調査を実施し、最新の情報収集に努める必要がある。	新たな評価対象分類群であるサンゴ類・軟体動物分科会を含む、12分科会において文献調査や現地調査を実施し、最新の情報を収集した。その結果、掲載種等の増加が見込まれている。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
④ 社会・経済情勢の変化(外部環境の変化)	開発行為や外来種の侵入等により、希少種への影響が考えられる。	⑥ 変化に対応した取組の改善	希少種の生息・生育状況の変化を把握するため、文献調査や現地調査を実施し、情報収集を継続する。また、保全が必要な生息地等を選定する必要がある。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○希少野生動植物の生態、生息域、個体数の現状把握、脅威となる外来種の防除
主な取組	沖縄島北部における希少種の回復実態調査の実施		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・県内に生息する希少生物種の生態、生息域、個体数等の現状を的確に把握するとともに、増減の原因等の分析を行い、効果的な保護対策に取り組めます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
沖縄島北部におけるマングース対策等の効果による希少種の回復実態を把握するため、ヤンバルクイナ等希少種の分布状況調査を実施する。	県	マングース対策の一環として、ヤンバルクイナやノグチゲラ等の分布状況調査の実施		
		希少種回復実態調査の実施種数(内訳)		
		6種(継続6種)	6種(継続6種)	6種(継続6種)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	マンガース対策事業			予算事業名	マンガース対策事業	
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
一括交付金 (ソフト)	委託	138,124	132,035	主な財源	実施方法	当初予算額
				一括交付金 (ソフト)	委託	100,172
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
やんばる地域において、定点観察、自動撮影カメラ等により、その地域に生息する希少な鳥類・哺乳類・両生類・爬虫類の生息状況調査を行った。				やんばる地域において、定点観察、自動撮影カメラ等により、その地域に生息する希少な鳥類・哺乳類・両生類・爬虫類の生息状況調査を行う。		

活動指標名	希少種回復実態調査の実施種数 (内訳)		R6年度			進捗状況	活動概要
	R4年度	R5年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	12種	12種	12種	6種(継続6種)	100.0%	順調	希少な鳥類、哺乳類、両生類、爬虫類の分布状況調査を実施した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

目標値6種に対して実績値12種であり、目標を達成したことから取組は順調に進捗している。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和6年度の取組改善案	反映状況
限られた予算の範囲で調査対象種の選定や調査サイクル等の検討を行い、効率的に調査を実施していく。	検討委員会等において専門家の意見を取り入れながら、調査対象種の選定や調査サイクル等の検討を行い、効率的な調査を実施した。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制(内部要因)	希少種の回復実態を把握するためには、長期間継続してモニタリングを実施する必要がある。	① 執行体制の改善	限られた予算の範囲で調査対象種の選定や調査サイクル等の検討を行い、効率的に調査を実施していく。
④ 社会・経済情勢の変化(外部環境の変化)	世界自然遺産の登録により、今後も遺産価値の維持・向上が重要であり、より一層、マングース等外来種対策に取り組む必要がある。	① 執行体制の改善	世界自然遺産地域を含む、第一北上防止柵以北におけるマングースの完全排除等、外来種対策の取り組みを引き続き推進していく。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○希少生物種のロードキルの防止
主な取組	イリオモテヤマネコ等の交通事故の防止		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・アンダーパスの設置や側溝改良、ゼブラ舗装等によるイリオモテヤマネコやヤンバルクイナ等の希少生物種のロードキルを防止するとともに、橋梁など道路構造の改良についての検討に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
希少生物種であるイリオモテヤマネコ等の交通事故を防止するため、イリオモテヤマネコの道路上への進入を抑制するための仕組みの検討や、ドライバーへの普及啓発等に取り組む。	県	交通事故防止対策の取組の推進		
		モニタリング、検討会の開催、工法・候補地の検討(アンダーパスの設置)		
		モニタリング及び工事施工場所の検討	実施設計	設置工事の実施
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	イリオモテヤマネコ交通事故防止対策事業			予算事業名	イリオモテヤマネコ交通事故防止対策事業	
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
一括交付金 (ソフト)	委託	64,262	51,161	主な財源	実施方法	当初予算額
				一括交付金 (ソフト)	委託	34,882
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
交通実態調査、観光客アンケート調査、ヤマネコ目撃情報の収集、普及啓発、アンダーパス設置に向けた基本計画案の検討を行った。				ヤマネコ目撃情報の収集、普及啓発、路上進入抑止対策の検討、交通事故の防止に向けた基本計画の作成を行う。		

活動指標名	R6年度					進捗状況	活動概要
	R4年度	R5年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
モニタリング、検討会の開催、 工法・候補地の検討（アンダー パスの設置）							
実績値	実態調査、検討会等の実施	実態調査、検討会等の実施	実態調査、検討会等の実施	設置工事の実施	60.0%	やや遅れ	現在までの取組に関するモニタリングや、有識者検討委員会の開催、実地調査による優先対策箇所を選定、工法の検討を行った。

様式1 (主な取組)

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
<p>令和6年度にアンダーパス設置工事を行うこととしていたが、工法・候補地の検討の結果、より経済的、効率的な観点からアンダーパス新設と同等の効果が期待できる既設排水ボックス等の改善に取り組むこととしたため、やや遅れとした。改善に向けた現地調査を進め、次年度以降の設計や工事実施を見込んでいる。なお、ヤマネコの目撃情報収集システムの拡充や普及啓発などを行い、ヤマネコの交通事故件数は2年連続で0件となった。</p>	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和6年度の取組改善案	反映状況
<p>西表島における交通実態やイリオモテヤマネコの出現状況を詳細に分析し、関係機関と連携し効果的な対策を検討し、令和5年度に作成した計画案を検証する。 沖縄島北部におけるヤンバルクイナ等の交通事故対策として、関係機関と連携し、効果的な除草手法の検討結果等を踏まえ、除草の取組やロードキル対策防止の普及啓発を実施する。</p>	<p>西表島における交通実態やイリオモテヤマネコの出現状況を詳細に分析し、関係機関と連携し効果的な対策を検討し、計画案の見直しを行った。 やんばる地域ロードキル発生防止に関する連絡会議に参画するなどして最新の情報を収集した。除草手法の取りまとめの他、5月と10月のSTOP!ロードキル月間にラジオやSNS等の情報発信を強化して取組んだ。</p>

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	既設の排水ボックス等をイリオモテヤマネコの路上進入抑制対策に活用するため、現地未確認箇所の既設排水ボックス等の現地踏査を行い、構造や土砂の堆積状況等の現況を把握する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
⑦ 取組の時期・対象の改善	現地未確認箇所の既設排水ボックス等の現地踏査を行い、構造や土砂の堆積状況等を把握し、イリオモテヤマネコの利用頻度が向上するように検討・対策を行う。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○外来種の駆除並びに侵入・定着防止、飼い犬・飼い猫の野生化防止対策の強化
主な取組	重点対策種の防除実施		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・外来種の生息状況や外来種による被害状況等の調査を実施し、調査結果に基づく効果的な捕獲手法の実践等を通して、マンガース等の外来種の駆除並びに侵入及び定着の防止を推進するとともに、ノイヌ・ノネコの捕獲と併せて、飼い犬・飼い猫の野生化防止対策の強化に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
沖縄県の生物多様性を保全するため、重点対策種(フィリマンゲース、グリーンアノール、タイワンスジオ、タイワンハブ、インドクジャク、ニホンイタチ等)の捕獲等を実施する。	県	外来種の駆除及び侵入・定着防止対策の実施		
		防除実施重点対策種数(内訳)		
		15種(新規6種、継続9種、累計15種)	15種(継続15種)	15種(継続15種)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)			
予算事業名	外来種対策事業			予算事業名	外来種対策事業		
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度			
一括交付金 (ソフト)	委託	434,037	424,608	主な財源	実施方法	当初予算額	
				一括交付金 (ソフト)	委託	498,853	
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画			
<p>タイワンハブ等の防除対策を実施した。新たな外来種については、検討の結果、情報収集を継続することとし、初期防除、リストの見直しは行わなかった。</p>				<p>タイワンハブ等の防除対策を実施する。また、新たな外来種について、必要に応じ、初期防除およびリストの見直し等を行う。</p>			
予算事業名	マングース対策事業			予算事業名	マングース対策事業		
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度			
一括交付金 (ソフト)	委託	138,124	132,035	主な財源	実施方法	当初予算額	
				一括交付金 (ソフト)	委託	100,172	
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画			
<p>沖縄島北部地域からのマングース完全排除および同地域へのマングース流入リスク低減のため、捕獲に取り組んだ。併せて、希少種の回復状況を把握した。</p>				<p>沖縄島北部地域からのマングース完全排除および同地域へのマングース流入リスク低減のため、捕獲に取り組む。併せて、希少種の回復状況の把握を行う。</p>			
活動指標名	防除実施重点対策種数 (内訳)		R6年度			進捗状況	活動概要
実績値	R4年度	R5年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
	15種	17種	17種	15種 (継続15種)	100.0%	順調	重点対策種17種について、トラップを用いた捕獲やモニタリング、普及啓発等の防除対策を実施した。

様式1 (主な取組)

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	
目標値15種に対して実績値は17種であり、目標を達成したことから取組みは順調に進捗している。	
(2) これまでの改善案の反映状況	
令和6年度の取組改善案	反映状況
沖縄県外来種対策行動計画において定めた防除目標の達成に向けて、同計画に基づく取組みを引き続き推進していく。	各外来種の防除計画等に基づき、防除対策を実施した。 また、有識者で構成される検討委員会および作業部会等での意見を踏まえて、効果的な捕獲手法の検討等を行った。

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制 (内部要因)	定着している外来種については、対策を継続しない場合は生息数および生息範囲を拡大させる恐れがある。	① 執行体制の改善	実施した防除対策について、外部有識者等による評価を行い、より効果的な防除対策を検討・実施する。
④ 社会・経済情勢の変化 (外部環境の変化)	沖縄島北部および西表島が世界自然遺産に登録されたことから、生物多様性を保全するための外来種対策がより重要となっている。	① 執行体制の改善	実施した防除対策について、外部有識者等による評価を行い、より効果的な防除対策を検討・実施する。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○外来種の駆除並びに侵入・定着防止、飼い犬・飼い猫の野生化防止対策の強化
主な取組	重点予防種のモニタリング実施		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・外来種の生息状況や外来種による被害状況等の調査を実施し、調査結果に基づく効果的な捕獲手法の実践等を通して、マングース等の外来種の駆除並びに侵入及び定着の防止を推進するとともに、ノイヌ・ノネコの捕獲と併せて、飼い犬・飼い猫の野生化防止対策の強化に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
沖縄県の生物多様性を保全するため、港湾や空港の周辺等においてモニタリング調査を実施し、重点予防種(ヒアリ等)の侵入・定着防止を図る。	県	重点予防種のモニタリング実施		
		重点予防種(ヒアリ)のモニタリング実施地点数(内訳)		
		8地点(継続8地点)	8地点(継続8地点)	8地点(継続8地点)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名 外来種対策事業				予算事業名 外来種対策事業		
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
一括交付金 (ソフト)	委託	434,037	424,608	一括交付金 (ソフト)	委託	498,853
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
ヒアリ等のモニタリング等を実施した。新たな外来種については、検討の結果、情報収集を継続することとし、初期防除、リストの見直しは行わなかった。				ヒアリ等のモニタリング等を実施する。また、新たな外来種について情報収集し、必要に応じて、初期防除およびリストの見直し等を行う。		

活動指標名	重点予防種（ヒアリ）のモニタリング実施地点数（内訳）		R6年度			進捗状況	活動概要
	R4年度	R5年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
実績値	10地点	10地点	10地点	8地点（継続8地点）	100.0%	順調	県内の港湾や空港の周辺等において、ヒアリ等のモニタリング調査を実施した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

目標値8地点に対して実績値10地点であり、目標を達成したことから取り組みは順調に進捗している。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和6年度の取組改善案	反映状況
○沖縄県外来種対策行動計画に基づき、侵入リスクの高い港湾周辺等において、環境省や港湾管理者などの関係機関と連携してモニタリング調査や情報共有を行っていく。	沖縄県外来種対策行動計画に基づき、侵入リスクの高い港湾周辺等において、ヒアリ等のモニタリング調査を実施し、環境省や港湾管理者と情報共有したほか、ヒアリ同定研修会を開催するなど、情報共有を図った。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
② 他の実施主体の状況(内部要因)	未定着の外来種は、常に物流等による侵入・定着のリスクがある。	② 連携の強化・改善	ヒアリやヒアリ等疑いのあるアリが発見された場合は、沖縄県ヒアリ対策総合マニュアル(ver2.0)に基づき、環境省や港湾管理者等の関係機関と情報共有を図り、早期発見・早期防除に努める。
④ 社会・経済情勢の変化(外部環境の変化)	沖縄島北部および西表島が世界自然遺産に登録されたことから、生物多様性を保全するための外来種対策がより重要となっている。	② 連携の強化・改善	ヒアリやヒアリ等疑いのあるアリが発見された場合は、沖縄県ヒアリ対策総合マニュアル(ver2.0)に基づき、環境省や港湾管理者等の関係機関と情報共有を図り、早期発見・早期防除に努める。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○外来種の駆除並びに侵入・定着防止、飼い犬・飼い猫の野生化防止対策の強化
主な取組	飼い犬・飼い猫の野生化防止対策		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・外来種の生息状況や外来種による被害状況等の調査を実施し、調査結果に基づく効果的な捕獲手法の実践等を通して、マングース等の外来種の駆除並びに侵入及び定着の防止を推進するとともに、ノイヌ・ノネコの捕獲と併せて、飼い犬・飼い猫の野生化防止対策の強化に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画			
		活動指標(アウトプット)			
		R4	R5	R6	
普及啓発イベントを実施し、動物遺棄の防止および動物愛護思想の涵養を図る。	県	飼い犬・飼い猫の野生化防止対策			
		普及啓発イベントの開催数(累計)			
		5回	5回(10回)	5回(15回)	
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課		【 098-866-2243 】	関連URL	https://www.pref.okinawa.lg.jp/kurashikankyo/petgaiju/1018720/1019480.html

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名 動物適正飼養推進事業費				予算事業名 動物適正飼養推進事業費		
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	直接実施	20,626	24,134	県単等	直接実施	24,999
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
<p>県民に動物遺棄の防止を啓発するとともに、動物の適正飼養に関する知識やモラルの向上を図るため、動物の愛護および管理に関する普及啓発を行った。</p>				<p>県民に動物遺棄の防止を啓発するとともに、動物の適正飼養に関する知識やモラルの向上を図るため、動物の愛護および管理に関する普及啓発を行う。</p>		

活動指標名	普及啓発イベントの開催数 (累計)		R6年度			進捗状況	活動概要
	R4年度	R5年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
実績値	5回	5回	5回	5回 (15回)	100.0%	順調	動物愛護週間行事として動物愛護図画コンクール、動物愛護の集い等を開催するほか、捨て犬・捨て猫防止キャンペーンを実施している。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

普及啓発イベントの開催数5回の目標値に対し、計画どおり動物愛護関連行事を5回実施することができたため、順調と判断した。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和6年度の取組改善案	反映状況
○イベント実施において、市町村や教育機関等の関係機関との連携を深め、県民により広く普及啓発を図る。	○市町村や教育機関等の関係機関と連携してイベントを実施することで、県民により広く普及啓発を図った。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
② 他の実施主体の状況(内部要因)	県民により広く普及啓発を図るための取組を強化する必要がある。	② 連携の強化・改善	県民により広く普及啓発を図るため、市町村や教育機関等の関係機関との連携を深める。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○密猟・盗採等の防止
主な取組	沖縄島北部における密猟・盗採等の防止		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・密猟・盗採や廃棄物の投棄など人為的な影響の抑制に向けて、自然保護地域における巡回・巡視の強化に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
沖縄島北部における希少種の密猟・盗採防止対策として、森林内パトロールや警察など関係機関と連携した合同パトロール等を実施する。	県	希少種の密猟・盗採防止対策の実施		
		森林内のパトロールの実施数(累計)		
		180回	180回(360回)	180回(540回)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名 希少種交通事故防止・密猟対策事業				予算事業名 希少種交通事故防止・密猟対策事業		
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
一括交付金 (ソフト)	委託	73,350	61,270	一括交付金 (ソフト)	委託	49,887
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
森林内パトロール、警察や関係機関と連携した合同パトロール、林道の夜間通行止め実証実験を実施した。				森林内パトロール、警察や関係機関と連携した合同パトロール、林道の夜間通行止めを実施する。		

活動指標名	森林内のパトロールの実施数 (累計)		R6年度			進捗状況	活動概要
	R4年度	R5年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	185回	183回	183回	180回 (540回)	100.0%	順調	沖縄島北部国頭村の森林内において密猟対策パトロールを早朝・昼間・夜間の時間帯に計183回実施した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

目標回数以上の森林内パトロールを実施し、希少種を184個体、車両を33台確認した。パトロールでは、人物の接触や特定はできていないものの、希少な野生動植物を記録できたことや、警察などとの合同パトロールにより職務質問を行うなどして、密猟防止に係る啓発を行った。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和6年度の取組改善案	反映状況
○パトロール等を継続して実施し、密猟防止の取り組みを広くアピールするとともに、効果的な地点設定を検討する。	○パトロール等の実施にあたっては、専門家等の意見を確認し、効果的なルートや時期を設定し、密猟の防止活動に努めた。マスコミ関係者にも合同パトロールに参加頂き、報道されることで周知を図った。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
④ 社会・経済情勢の変化(外部環境の変化)	密猟や人流に関する情報を収集し、効果的な密猟防止対策に繋げる必要がある。	⑤ 情報発信等の強化・改善	沖縄島北部地域の住民等との意見交換や監視カメラの確認等により、密猟行為や人流に関する最新の情報を掴み、国内外からの来訪者に対する密猟問題に関する情報発信を強化する。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○普及啓発活動
主な取組	外来種対策に係る普及啓発活動の実施		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・本県の生物多様性に関する情報の一元化及び充実を図り、生物多様性に関するデータの利活用促進、研究及び普及に取り組むとともに、ホームページや各広報媒体を活用して、希少種の保護対策、外来種対策、密猟・盗採防止対策等の普及啓発活動を推進します。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
多くの県民が沖縄の生物多様性の豊かさを認識し、外来種問題および対策の必要性について理解を深め、県民一丸となった取り組みにつなげるための普及啓発活動を実施する。	県	普及啓発活動の実施		
		企画展示、講演会等、普及啓発活動の実施数(累計)		
		1回	1回(2回)	1回(3回)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名		外来種対策事業		予算事業名		外来種対策事業
主な財源	実施方法	R5年度	R6年度	R7年度		
		決算額	決算見込額	主な財源	実施方法	当初予算額
一括交付金 (ソフト)	委託	434,037	424,608	一括交付金 (ソフト)	委託	498,853
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
パネル展の開催や環境フェア等へ出展した。				パネル展の開催や環境フェア等へ出展する。		

活動指標名	企画展示、講演会等、普及啓発活動の実施数 (累計)		R6年度			進捗状況	活動概要
	R4年度	R5年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
実績値	8回	14回	14回	1回 (3回)	100.0%	順調	夏休み子ども自由研究イベントへの出展を1回、各地域の図書館等においてパネル展の開催や展示ボックスの設置を12回、環境フェアへの出展を1回行った。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

目標値1回に対して実績値14回であり、目標を達成していることから、順調に進捗している。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和6年度の取組改善案	反映状況
多様なイベントの開催やより興味を引く展示物の作成、外来種専用ホームページの充実など、普及啓発の取組を引き続き行っていく。	市町村や博物館学芸員等と連携しての展示物の作成や外来種専用ホームページを更新した。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制(内部要因)	多くの県民が外来種問題を認識し、外来種被害予防三原則「入れない・捨てない・拡げない」の行動を実践するための普及啓発を充実させる必要がある。	⑤ 情報発信等の強化・改善	多様なイベントの開催やより興味を引く展示物の作成、特設サイト「外来種.com」の充実など、普及啓発の取組を引き続き行っていく。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○普及啓発活動
主な取組	生物多様性地域戦略事業（生物多様性おきなわ戦略）		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・本県の生物多様性に関する情報の一元化及び充実を図り、生物多様性に関するデータの利活用促進、研究及び普及に取り組むとともに、ホームページや各広報媒体を活用して、希少種の保護対策、外来種対策、密猟・盗採防止対策等の普及啓発活動を推進します。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
生物多様性を保全・維持し、自然環境共生型社会の実現に向け、平成25年3月に策定した生物多様性おきなわ戦略について、現在の自然環境や社会状況等を踏まえた上で、有識者からなる委員会をもとに見直し第2次生物多様性おきなわ戦略(仮称)を策定するとともに、生物多様性の普及啓発等を行う。	県	生物多様性おきなわ戦略の改定、生物多様性の普及啓発		
		生物多様性おきなわ戦略の改定		
		生物多様性おきなわ戦略の改定作業着手	生物多様性おきなわ戦略の改定作業完了	生物多様性おきなわ戦略に基づく取組推進
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】	関連URL	https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/bd_okinawa_senryaku.html

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	生物多様性地域戦略事業			予算事業名	生物多様性地域戦略事業	
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	委託	27,158	18,781	県単等	委託	19,591
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
令和5年度に作成した新戦略(素案)を見直した。また、新戦略(素案)を踏まえ、生きものいっせい調査等によって生物多様性の普及啓発等を行った。				新戦略の公開に向けて取り組み、新戦略及び生物多様性の普及啓発等を実施する。		

活動指標名	生物多様性おきなわ戦略の改定		R6年度			進捗状況	活動概要
実績値	R4年度	R5年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
		生物多様性おきなわ戦略の改定作業着手	生物多様性おきなわ戦略の改定作業継続	生物多様性おきなわ戦略の改定作業・取組推進	生物多様性おきなわ戦略に基づく取組推進	100.0%	順調

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

新戦略(素案)を踏まえ、生きものいっせい調査等によって生物多様性の普及啓発等を行ったことから順調とした。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和6年度の取組改善案	反映状況
○ 新戦略(素案)では、沖縄県の生物多様性の変遷を地図上の重ね合わせ等見える化を図るとともに、新戦略の発信方法については、対象別に新戦略の概要版を策定予定である。	○ 新戦略(素案)では、沖縄県の生物多様性の変遷を地図上の重ね合わせ等見える化を図るとともに、新戦略(素案)が県民に理解しやすいように見直しを行った。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	有識者等の意見聴取において、新戦略が県民に正しく伝わるよう工夫が必要等の意見があった。



4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
⑧ その他	新戦略が県民に正しく伝わるよう、評価方法等の精査や図や表等を適切に使用するよう取り組む。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施策	②希少野生動植物種や沖縄固有種の保護対策、外来生物対策の推進
			施策の小項目名	○普及啓発活動
主な取組	生物多様性地域戦略事業（生きものいっせい調査）		対応する成果指標	重点対策種等の排除・根絶地域数
施策の方向	・本県の生物多様性に関する情報の一元化及び充実を図り、生物多様性に関するデータの利活用促進、研究及び普及に取り組むとともに、ホームページや各広報媒体を活用して、希少種の保護対策、外来種対策、密猟・盗採防止対策等の普及啓発活動を推進します。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
県教育庁と連携し、県内小学生を対象とした「生きものいっせい調査」や一般県民を対象とした「フォトコンテスト」を実施し生物多様性の普及啓発活動を図る。	県	生物多様性の普及啓発		
		生きものいっせい調査の実施数(累計)		
		1回	1回(2回)	1回(3回)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】	関連URL	https://www.okinawa-ikimono.com/

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名	生物多様性地域戦略事業			予算事業名	生物多様性地域戦略事業	
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	委託	4,609	4,499	県単等	委託	4,505
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
県内小学校の4～6学年全員を対象とした「生きものいっせい調査」や一般県民を対象に「フォトコンテスト」を実施した。				県内小学校の4～6学年全員を対象とした「生きものいっせい調査」や一般県民を対象に「フォトコンテスト」を実施する。		

活動指標名	生きものいっせい調査の実施数 (累計)		R6年度			進捗状況	活動概要
	R4年度	R5年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	1回	1回	1回	1回(3回)	100.0%	順調	生物多様性の普及啓発と県内の生物多様性の状況把握の一助となるよう、県内小学校の4～6学年全員を対象に「生きものいっせい調査」、一般を対象に「フォトコンテスト」を実施した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

計画通り「生きものいっせい調査」及び「フォトコンテスト」を実施したことから順調とした。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和6年度の取組改善案	反映状況
専門家へのヒアリングを行い、調査結果データの活用を検討する。	専門家へのヒアリングなどを行い、最新の調査結果をマッピングし、ホームページで公開した。また、過去の調査結果についても、ホームページで閲覧できるよう検討を行った。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
⑦ その他(改善余地の検証等)	生物多様性の普及啓発を強化するには、本事業の周知が課題となる。	⑤ 情報発信等の強化・改善	本事業の周知については、他事業と連携し、周知機会を増やすことを検討する。

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施策	③アジアの自然史科学の拠点「国立沖縄自然史博物館」の設置促進
			施策の小項目名	○国立沖縄自然史博物館の設置促進
主な取組	国立沖縄自然史博物館誘致に係るイベント開催		対応する成果指標	国立沖縄自然史博物館の誘致活動の認知度
施策の方向	<p>・「国立沖縄自然史博物館」については、東アジア、東南アジア全体の自然史科学を支える研究及び人材育成の拠点となるばかりでなく、本県の生物多様性の豊かさやその重要性をより多くの人に発信し、自然環境の保全や沖縄観光の魅力の強化につながることや、県内の子どもたちの自然科学に対する関心を高め学力向上にも資することから、今後あらゆる機会を捉えて県内誘致に努めます。</p>			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
沖縄県に国立自然史博物館を誘致するため、国への要請、シンポジウムや関係団体等への説明会など、機運醸成に向けた取組を実施する。	県	認知度の向上及び機運醸成を図るためのシンポジウム・企画展等周知啓発イベントの開催		
		シンポジウム等周知啓発イベントの開催数(累計)		
		5回	5回(10回)	5回(15回)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】	関連URL	https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/kankyo/shizen/shizenshihakubutsukan.html

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名 国立自然史博物館誘致推進事業				予算事業名 国立自然史博物館誘致推進事業		
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	委託	28,467	31,584	県単等	委託	34,131
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
県内シンポジウム、県内5圏域での企画展や周知イベントを行った。				県内シンポジウム、県内5圏域での企画展や周知イベントを行う。		

活動指標名	シンポジウム等周知啓発イベントの開催数(累計)		R6年度			進捗状況	活動概要
	R4年度	R5年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B		
実績値	7回	9回	8回	5回(15回)	100.0%	順調	県内シンポジウム(沖縄市)を11月10日に実施した。また県内5圏域(7カ所)で企画展を実施した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

令和6年度は、シンポジウム(1回)、企画展(7回)を合計8回開催し、目標値を上回った。県内シンポジウムには約300名の参加があるなど、機運醸成が図られた。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和6年度の取組改善案	反映状況
大型商業施設などでのイベントを行うなど、普及啓発方法を工夫しながら、さらなる認知度の向上および機運醸成を図る。	小・中・高校生参加型シンポジウムや沖縄美ら海水族館、産業まつりと連携した企画展を実施し、認知度の向上および機運醸成を図った。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
② 他の実施主体の状況(内部要因)	県内市町村等に協力を仰ぎ、引き続き普及啓発に取り組む、さらなる認知度の向上および機運醸成を図っていく必要がある。	② 連携の強化・改善	県内市町村等に協力いただき、大型イベントと連携した展示や大型商業施設における開催など、普及啓発方法を工夫しながら、さらなる認知度の向上および機運醸成を図る。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施策	③アジアの自然史科学の拠点「国立沖縄自然史博物館」の設置促進
			施策の小項目名	○国立沖縄自然史博物館の設置促進
主な取組	国への要請		対応する成果指標	国立沖縄自然史博物館の誘致活動の認知度
施策の方向	<p>・「国立沖縄自然史博物館」については、東アジア、東南アジア全体の自然史科学を支える研究及び人材育成の拠点となるばかりでなく、本県の生物多様性の豊かさやその重要性をより多くの人に発信し、自然環境の保全や沖縄観光の魅力の強化につながることや、県内の子どもたちの自然科学に対する関心を高め学力向上にも資することから、今後あらゆる機会を捉えて県内誘致に努めます。</p>			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
沖縄県に国立自然史博物館を誘致するため、国への要請、シンポジウムや関係団体等への説明会など、機運醸成に向けた取組を実施する。	県	国立沖縄自然史博物館の設立に係る国への要請		
		国への要請回数(累計)		
		1回	1回(2回)	1回(3回)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】	関連URL	https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/kankyo/shizen/shizenshihakubutsukan.html

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名 国立自然史博物館誘致推進事業				予算事業名 国立自然史博物館誘致推進事業		
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
				主な財源	実施方法	当初予算額
県単等	委託	28,467	31,584	県単等	委託	34,131
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
骨太の方針への要請や沖縄および北方対策担当大臣への要望等、あらゆる機会をとらえて国へ要請した。				あらゆる機会をとらえて国へ要請する。		

活動指標名	国への要請回数 (累計)		R6年度			進捗状況	活動概要
	R4年度	R5年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
実績値	1回	5回	2回	1回 (3回)	100.0%	順調	骨太の方針への要請、沖縄および北方対策担当大臣への要望など、国への要請を2回行った。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

令和6年度は国への要請を2回行い、目標を上回った。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和6年度の取組改善案	反映状況
誘致実現に向けて、国等への働きかけや意見交換等を行う必要がある。	機会を捉え、2回の要請をした。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)	
類型	内容
② 他の実施主体の状況(内部要因)	誘致実現に向けて、国等への働きかけや関係者との意見交換等を行う必要がある。



4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容
② 連携の強化・改善	誘致実現に向けて、国等への働きかけや関係者との意見交換等を行う。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(2)-ア	自然環境・生物多様性の保全・継承	施策	③アジアの自然史科学の拠点「国立沖縄自然史博物館」の設置促進
			施策の小項目名	○国立沖縄自然史博物館の設置促進
主な取組	経済団体等への説明会・講演会の開催		対応する成果指標	国立沖縄自然史博物館の誘致活動の認知度
施策の方向	<p>・「国立沖縄自然史博物館」については、東アジア、東南アジア全体の自然史科学を支える研究及び人材育成の拠点となるばかりでなく、本県の生物多様性の豊かさやその重要性をより多くの人に発信し、自然環境の保全や沖縄観光の魅力の強化につながることや、県内の子どもたちの自然科学に対する関心を高め学力向上にも資することから、今後あらゆる機会を捉えて県内誘致に努めます。</p>			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画		
		活動指標(アウトプット)		
		R4	R5	R6
沖縄県に国立自然史博物館を誘致するため、国への要請、シンポジウムや関係団体等への説明会など、機運醸成に向けた取組を実施する。	県	認知度の向上及び機運醸成を図るための経済団体等に対する説明会・講演会の開催		
		説明会等の開催数(累計)		
		1回	1回(2回)	1回(3回)
担当部課【連絡先】	環境部自然保護課	【 098-866-2243 】	関連URL	https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/kankyo/shizen/shizenshihakubutsukan.html

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名 国立自然史博物館誘致推進事業				予算事業名 国立自然史博物館誘致推進事業		
主な財源	実施方法	R5年度 決算額	R6年度 決算見込額	R7年度		
県単等	委託	28,467	31,584	主な財源	実施方法	当初予算額
				県単等	委託	34,131
令和6年度活動内容				令和7年度活動計画		
市町村や経済団体等への説明会等を開催した。				市町村や経済団体等への説明会等を開催する。		

活動指標名	説明会等の開催数 (累計)		R6年度			進捗状況	活動概要
	R4年度	R5年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
実績値	2回	2回	2回	1回 (3回)	100.0%	順調	県選出国會議員、経済団体等に説明をした。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

説明会等の開催数 (累計) について、目標 1 回に対し実績 2 回 (16カ所) だったことから、「順調」と判定した。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和6年度の取組改善案	反映状況
関係団体等への説明会等を行い、認知度の向上および機運醸成を図る。	個別に訪問することで、認知度の向上および機運醸成を図ることができた。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
② 他の実施主体の状況(内部要因)	引き続き、認知度の向上および機運醸成を図り、説明の機会をとらえることで賛同者(団体等)を広げていく必要がある。	② 連携の強化・改善	関係団体等に対する説明の機会を捉え、有識者と連携して認知度の向上および機運醸成を図る。